

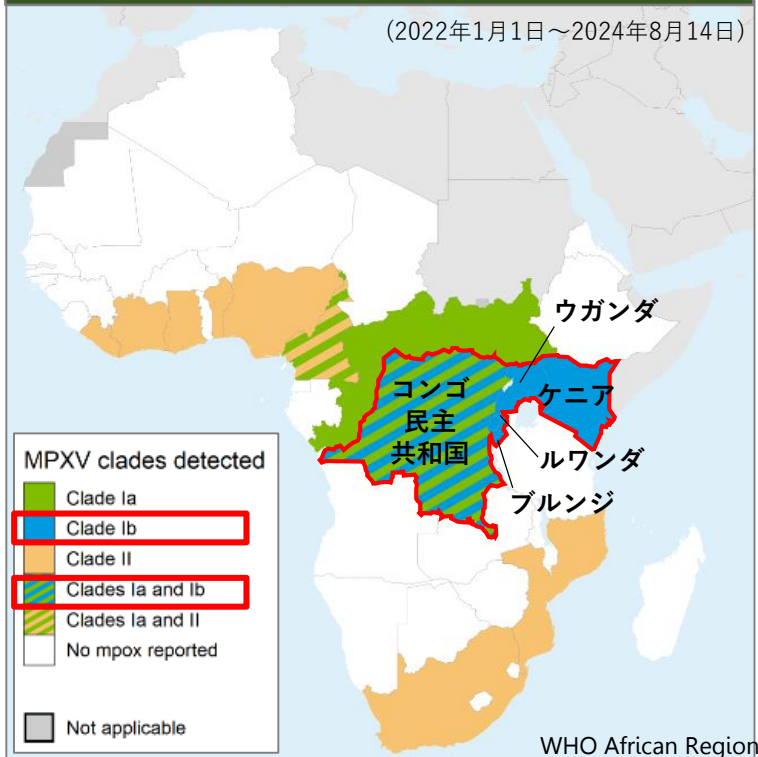
エムポックス緊急事態宣言 -WHO-

参考資料 3

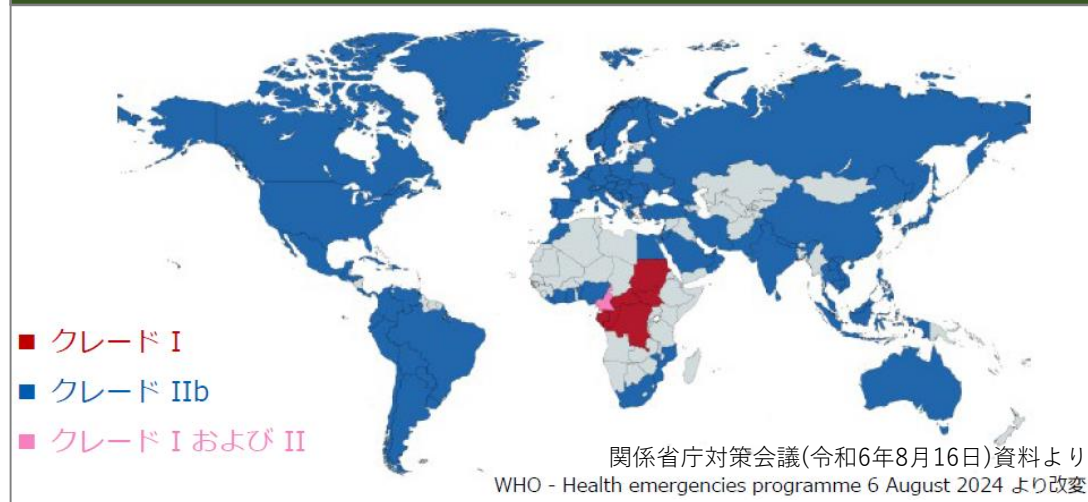
- 2022年5月～秋にかけて、クレード II bによる国際的な流行が発生し、WHOが「**国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC)**」を宣言(2022.7-2023.5)。
- 2023年秋以降、コンゴ民主共和国ではクレード I による大規模な流行により**子どもや妊婦が影響**を受けており、さらに**より重症で伝搬性が高い**可能性があると言われている**クレード I bの流行拡大**が周辺国で確認されたことから、2024年8月14日(日本時間8月15日)にWHOが「**国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態**」を宣言。

エムポックス発生状況

(2022年1月1日～2024年8月14日)



エムポックス クレード別分布状況



8月15日 スウェーデンでアフリカ以外で初の**クレード I**のエムポックス感染例が報告(輸入例)。

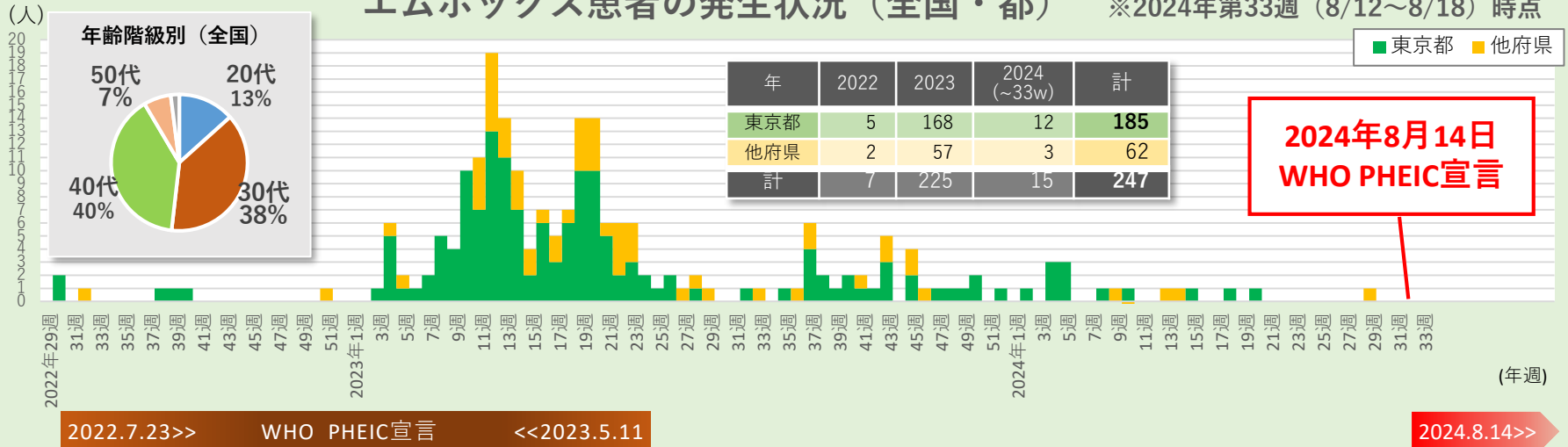
8月22日 タイでアフリカから到着したヨーロッパ人の男性(66歳)が**クレード I**のエムポックスに感染していることが判明。

※ 日本ではクレード I は確認されていない。

発生状況 及び 都の対応

エムポックス患者の発生状況（全国・都）

※2024年第33週（8/12～8/18）時点



2022年の流行は収束しており、都内では2024年5月より患者が発生していない

都の対応

- ✓ エムポックスに対応可能な医療機関について、都のホームページで公表（R5年4月～）
- ✓ 国立国際医療研究センターにおける治療薬の投与、接触者への曝露後ワクチン接種に関する臨床研究等や協力依頼について関係機関（都医師会、都内保健所、病院等）に通知（8/19）
- ✓ 都民向けリーフレットの更新（8/20）
- ✓ **健安研におけるリアルタイムPCR法によるクレード I bの検査体制の確立**
- ✓ **クレード I bに関するリスク評価について、東京iCDCの専門家から意見を聴取**
 - ▶ 「飛沫や空気中の近接での接触による感染経路はメインではないと考えられるため、引き続き、性感染症として見ていく（対策していく）必要がある。」